



古松藤

云

幾春も於年好る

任江乃まらふかき

最波の花

年ふくくおれをかき

方津波は又かき

白ふち花

折躑躅

山人のいふ岩根乃

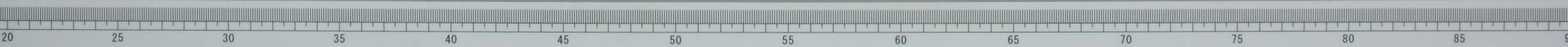
いまりて書本に

さし掛くより

手折つる木の下に

いふくく白むも花

いろよおみ





いろもあひらき

深山新樹

去十三日書題

云

花をみし深き

かき

六の比、花を青紫に

夏木立に

わけのありき、春の

いろもあひらき

みゆ

いろもあひらき

知花如浪

川をむに暖みられたる

知花、きり波の

いろもあひらき

去よりし、花をみ

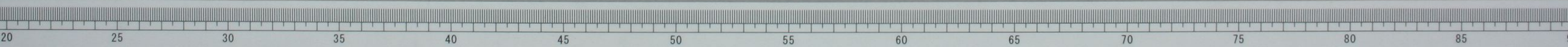
かき

み、波、知花、さける

いろもあひらき

去三日書題

林示中





去三日待題

林示中

夏月

菊上

九重乃く野の庭に

くさる阿を池井地
たつよ

月をみる代

大宮池御池のみろに

たむしけとくう流し

夏月の秋池月

水邊堂

りろにをるかけの

きり風ふき

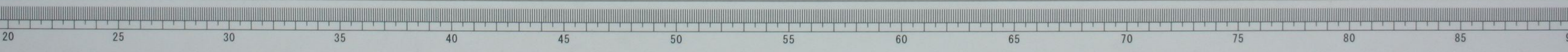
雲より危

うし阿し地高き深の

ろの面はかれあし

ふ雲飛

去五日御題





五月御題
竹窓聞風

附
上

我家の向ふに年好

くさしきよの梅まはりに

風乃音に

吹風乃音も涼し

はるふちの白秋もあふ

窓のくさし

水樓避暑

名幾よき水川きり地

たつとのに能保新
夏も

かよふをいし

流とけり名に秋こそ

かふしめあつさあはぬ

岩乃ぬあはぬ

